

# 2019年3月期 決算説明資料

2019年5月14日（火）

株式会社 **力ネカ**

# 目 次

---

業績概要	1
セグメント別 売上高・営業利益	2
事業概況	3
貸借対照表	7
キャッシュ・フロー計算書	8
株主還元	9
業績予想	10
セグメント別業績予想	11

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(単位：億円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減	
			金額	%
売上高	5,961	6,210	249	4.2%
営業利益	369	360	△ 8	△2.3%
経常利益	328	313	△ 15	△4.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	216	222	7	3.1%
1株当たり当期純利益	328.46円	339.15円		
1株当たり配当金	90円	100円		
ROE	6.8%	6.7%		

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。2018年3月期の1株当たり当期純利益・1株当たり配当金は、株式併合後の株式数で換算しております。

- 当期の世界経済は、前半は緩やかな成長が続いたものの、米国の保護主義的な政策に端を発した米中貿易摩擦の激化、中東、アジアの地政学的リスク、英国のEU離脱問題など不安定な政治経済状況を反映して世界的な景気の調整局面が表面化
- わが国の経済も台風、地震などの自然災害に活動が阻害され、一時的に停滞
- 当社業績は、グローバルな事業展開が寄与し売上高は過去最高を更新したが、世界的な景気変動の影響もあり、営業利益は減少

# セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2018年3月期	2019年3月期	増減		2018年3月期	2019年3月期	増減	
			金額	%			金額	%
Material SU	238,880	255,918	17,037	7.1%	27,109	25,961	△1,147	△4.2%
Quality of Life SU	149,360	156,674	7,314	4.9%	13,730	15,092	1,361	9.9%
Health Care SU	45,856	47,442	1,585	3.5%	9,849	10,583	734	7.5%
Nutrition SU	160,930	158,968	△1,962	△1.2%	6,531	5,930	△600	△9.2%
その他	1,114	2,040	926	83.1%	520	1,464	944	181.4%
調整額	-	-	-	-	△ 20,853	△ 22,992	△2,139	-
計	596,142	621,043	24,901	4.2%	36,888	36,041	△846	△2.3%

※SU : Solutions Unit

## Material

Vinyls and Chlor-Alkaliは海外塩ビ系特殊樹脂は低調、また、か性ソーダはインド認証問題で大きく影響を受けた  
 Performance Polymersはグローバル生産能力増強が寄与し業績拡大

## Quality of Life

Performance Fibersは頭髮のアフリカ市場が活況を取り戻し、業績拡大  
 E & I Technologyは技術革新が続いている新しい市場に新製品の販売を拡大  
 PV & Energy managementは構造改革が進み、ユニークな高効率太陽電池販売拡大で4Q黒字化  
 Foam & Residential Techsは自然災害の影響を受けた

## Health Care

Medical Devicesは国内外で新製品販売が拡大し、国内償還価格改定の影響をカバー  
 Pharmaはバイオ医薬品の販売が順調に拡大

## Nutrition

Foods & Agrisは国内市場低迷、天候不順の影響を受けた  
 Supplemental Nutritionは還元型コエンザイムQ10の米国市場中心とした販売拡大

売上高

2,559億円 (対前年同期 +7.1%)

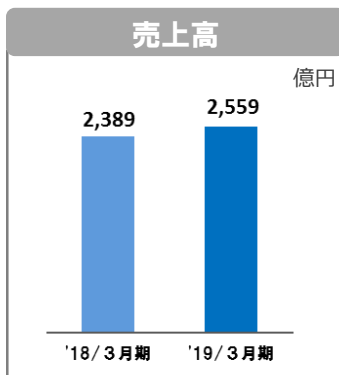
売上高構成比

41.2%

営業利益

260億円 (対前年同期 ▲4.2%)

売上高



Vinyls and Chlor-Alkali

- 塩化ビニル樹脂及び塩ビペースト樹脂などの国内販売は順調に推移したが、海外の塩ビ系特殊樹脂は低調
- か性ソーダについては、インド向け輸出が認証問題により大きく影響を受けた

Performance Polymers (MOD)

- モディファイヤーについては、マレーシアの第2系列設備が本格的に寄与し、堅調な販売
- エポキシマスターバッチは、自動車向け構造接着剤用などの採用が進み、能力増強を決定、航空機・宇宙産業向け複合材の事業展開を更に加速するため、樹脂からプリプレグまでの一貫した生産設備の建設を進行

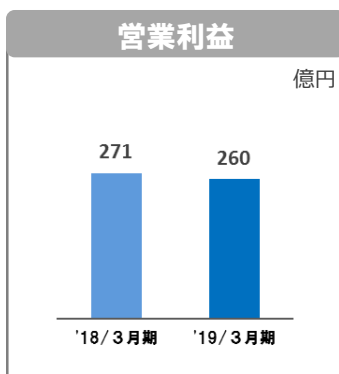
Performance Polymers (MS)

- 変成シリコンポリマーについては、需要がグローバルに拡大しているなか、マレーシアの新設備が本格的に寄与するとともに、昨年12月に稼働したベルギーの能力増強設備も順調に立ち上がり収益に貢献

新規事業

- カネカ生分解性ポリマーPHBHについては、世界的な使い捨てプラスチックの規制強化のなか、FDAに加え本年1月には欧州委員会でも果物・野菜袋用途などの包装材料として認定された。更に今般、すべての食品用途に対する欧州委員会での審査が終了し、本年秋にも欧州全域での使用が可能となる見通し
- 国内でもマイクロプラスチック問題へのソリューションとして引き合いが急増し、コンビニエンスストアなど大手顧客とのプロジェクトも進み、ストローやレジ袋など幅広い用途に採用。需要拡大に備え本格量産プラントを検討中

営業利益



売上高 1,567億円 (対前年同期 +4.9%)

売上高構成比 25.2%

営業利益 151億円 (対前年同期 +9.9%)

## Performance Fibers

- ・ アフリカ市場における頭髮分野の需要は引き続き順調
- ・ 高機能頭髮としてのブランドを強化し、アフリカ及びその他市場での新しい需要開拓を進めており、業績が回復・拡大
- ・ 難燃分野は作業服向け需要が拡大

## E & I Technology

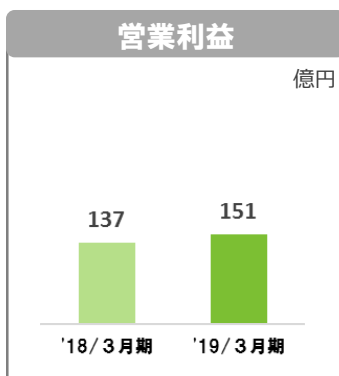
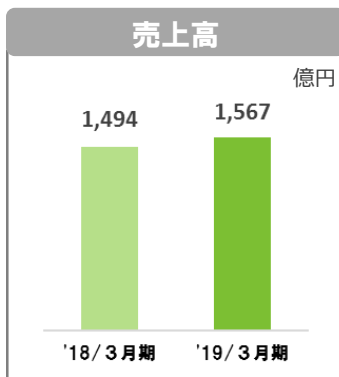
- ・ 超耐熱ポリイミドフィルムは、スマートフォンの高機能化に伴いシェアを拡大したが、市場減速の影響を受けた
- ・ 有機ELディスプレイや5Gスマートフォン向けポリイミドワニス・透明ポリイミドフィルム・新規ピクシオなど、技術革新が続いている新しい市場にユニークな新製品を積極的に投入し、今後も情報社会を支える革新的な素材を提供

## Foam & Residential Techs

- ・ スチレン系発泡樹脂及び押出ボードは、台風、地震などの自然災害の影響による漁獲量の減少、土木・建築工事の遅れによる需要低迷に加え物流費高騰の影響を受けた
- ・ 発泡ポリオレフィン は、グローバル供給体制強化に向けて、タイ工場を立ち上げたが、中国における自動車販売台数減の影響を受けた。ベルギーでの能力増強や新プロセス導入による事業基盤強化を進めていく

## PV & Energy management

- ・ 高効率太陽電池の市場評価が高く、販売は順調に伸びており、需要拡大に対応すべく増産を準備中
- ・ 事業構造改革の進展とあわせ収益力が改善し、第4四半期は黒字化を達成
- ・ 窓や壁が発電するユニークな太陽電池が住宅やビルのゼロエネルギー・マネジメント・システム素材として注目を集めており、地球環境問題やエネルギー問題に対するソリューション事業として強化していく



売上高

474億円 (対前年同期 +3.5%)

売上高構成比

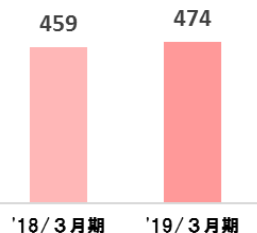
7.6%

営業利益

106億円 (対前年同期 +7.5%)

## 売上高

億円



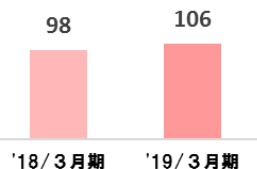
## Medical Devices

- ・ 高機能バルーンカテーテルや消化器用カテーテルなど新製品の販売が順調に進んだことに加え、海外市場で販売が拡大し、国内の償還価格改定の影響をカバーした
- ・ 今後、薬剤を塗布したバルーンカテーテルや電極カテーテルに加え、新たに米国の医療機器会社と資本・業務提携し、血流測定機器などの新規医療領域での事業拡大を進める

## Pharma

## 営業利益

億円

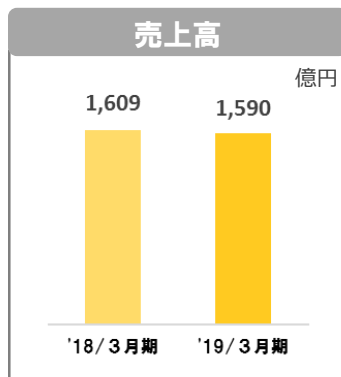


- ・ カネカユーロジェンテック社のバイオ医薬品の販売が順調に拡大している。生産能力増強工事は計画通りに進んでおり、稼働後の業績拡大を確実にすべく市場開拓に取り組んでいる
- ・ 新たに導入したAPI・中間体用の連続生産設備を活用して、Pharma分野で総合的な事業拡大を加速
- ・ カネカUSイノベーションセンターを拠点にして新規事業の創出を行っていく

売上高 1,590億円 (対前年同期 ▲1.2%)

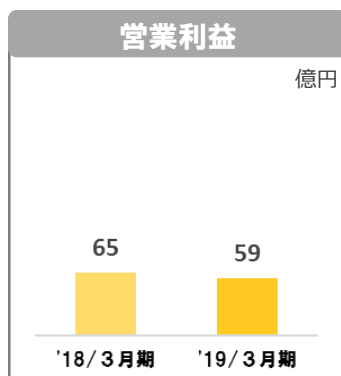
売上高構成比 25.6%

営業利益 59億円 (対前年同期 ▲9.2%)



## Foods & Agris

- 大手製パン、コンビニエンスストアや食品メーカーへの積極的な提案型営業による需要喚起を進めたが、国内（製菓・製パン）市場の低迷に、天候不順も加わり大きな影響を受けた
- インドネシアでは日本の美味しいパン・菓子文化の拡大期を迎えており、既に決定した加工油脂の新工場建設工事も順調に進行中
- 乳製品事業では、好評な「パン好きの牛乳」に続き新たに醗酵バター、今春には「パン好きのカフェオレ」を発売。今後、ネット通販などのデジタルマーケティング活動を強化し、ヨーグルトなど新たな乳製品のラインアップを充実させ、乳製品の新工場建設の検討を急ぐ
- これらの活動を通して酪農家の生産性向上や循環型酪農の発展に貢献する



## Supplemental Nutrition

- 主力の還元型コエンザイムQ10の販売が米国市場を中心に引き続き増加
- 連結子会社化したスペインの乳酸菌会社の乳酸菌サプリメント素材は、そのユニーク性が高く評価され、ヨーロッパ市場で順調に販売が拡大。1月より米国で販売を開始するとともに、日本での販売検討を開始
- 今後機能性食品での品揃えを充実させ、グローバルに事業を拡大していく



# 貸借対照表

(単位：億円)

	2018年3月末	2019年3月末	増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	3,063	3,142	80
固定資産 等	3,335	3,453	118
資産合計	6,398	6,596	198
<b>負債の部</b>			
有利子負債	1,131	1,205	74
その他	1,800	1,783	△ 17
負債合計	2,932	2,989	57
<b>純資産の部</b>			
自己資本	3,262	3,370	108
非支配株主持分 他	204	237	33
純資産合計	3,466	3,607	141
<b>負債、純資産 合計</b>	<b>6,398</b>	<b>6,596</b>	<b>198</b>
<b>自己資本比率</b>	<b>51.0%</b>	<b>51.1%</b>	
<b>1株当たり純資産</b>	<b>4,976.67</b>	<b>5,166.88</b>	

- 積極的な設備投資継続による有形固定資産の増加や、売上高増加に伴い、たな卸資産が増加したことにより総資産が増加した

(単位：億円)

	2018年3月期	2019年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	498	411
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 388	△ 472
フリー・キャッシュ・フロー	110	△ 61
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 54	△ 10
現金及び現金同等物の増減額 (含 換算差額、連結の範囲の変更に伴う増減)	64	△ 74
現金及び現金同等物の期末残高	474	400

- 営業CFは、純利益及び減価償却費等により、411億円の収入
- 投資CFは、積極的な設備投資により、472億円の支出

(単位：百万円、千株、円/株)

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
当期純利益	18,033	20,985	20,484	21,571
1株あたり純利益	53.52	62.98	61.72	65.69
1株あたり配当	16	18	18	18
配当性向	29.9%	28.6%	29.2%	27.4%
自己株式取得数	2,000	1,964	2,000	3,000
自己株式取得額	1,594	1,805	1,803	2,561
総還元性向	38.7%	37.2%	38.0%	39.3%
自己株式消却数	—	—	—	—

2019年3月期	2019年3月期 株式併合前 ベースで換算※
22,238	22,238
339.15	67.83
100	20
29.5%	29.5%
400	2,000
1,741	1,741
37.3%	37.3%
2,000	10,000

※当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。

- 増配 : 創立70周年記念配当10円(年間90円⇒年間100円)
- 自己株式取得: 40万株(1,741百万円)
- 自己株式消却: 200万株(2019年3月末)

- 世界経済については、IMFが4月に本年の世界経済成長率を3.3%に下方修正。米中貿易摩擦、地政学的リスクなどにより、世界的な景気減速が続く見通し
- 日本経済も、オリンピックに伴う内需拡大が期待されるものの消費増税の影響が懸念される
- 技術のイノベーションに基づく新たな社会価値の創出やビジネスモデルの変化は、化学会社にとっては大きなビジネスチャンス、景気全体として不確実な事業環境が進行していくと考えられ、業績見通しは、不透明感があるが革新的素材の技術開発を通じて、事業ポートフォリオの変革に取り組む

## ○2020年3月期 通期連結業績予想

(単位：億円)

	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (予想)	増減
売上高	6,210	6,500	290 (4.7%)
営業利益	360	400	40 (11.0%)
経常利益	313	350	37 (11.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	222	230	8 (3.4%)

※ 2020年3月期の為替レート、原料価格は、110円/米ドル、125円/ユーロ 国産ナフサ価格45,000円/KLを想定しております。

※ 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。1株当たり当期純利益は、株式併合後の株式数で算出しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (予想)	増減	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (予想)	増減
Material SU	2,559	2,670	111	260	265	5
Quality of Life SU	1,567	1,700	133	151	190	39
Health Care SU	474	520	46	106	110	4
Nutrition SU	1,590	1,600	10	59	65	6
その他	20	10	△ 10	15	5	△ 10
調整額	-	-	-	△ 230	△ 235	△ 5
<b>計</b>	<b>6,210</b>	<b>6,500</b>	<b>290</b>	<b>360</b>	<b>400</b>	<b>40</b>

※SU : Solutions Unit

➤ 2020年3月期については、ポートフォリオの変革により収益率向上（営業利益率 5.8% ⇒ 6.2%）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

＜IRに関するお問い合わせ＞

株式会社 **カネカ** IR・広報部

TEL : 03-5574-8090